**Unit2，Unit3，unit7，Unit10要約**

Unit2　要約　「消化器系：消化器系臓器の働き」

人間の消化器系は消化管とよばれる複雑な管腔臓器である。それは両末端が外界に開いているため、他の内臓とは異なり無菌状態ではない。食物を分解するのが主な機能で、体はそれを、細胞を養うことやエネルギー供給に使う。運搬、分解、吸収、排泄という過程をたどる。体液と電解質のバランスの保持を助ける役目もしている。消化液には、唾液、胃酸、膵液、胆汁などがある。完全に消化されずに残ったものは大腸に押し出され、大便として排泄される。

Unit3　要約　「循環器系：心臓病」

心臓と血管は人間の身体の中で極めて重要な役割を担っている。いわゆる心臓血管系とよばれるものを形成している。主な機能は血液を運ぶことであり、血液は栄養や気体、老廃物、免疫細胞を体中に運ぶ。心臓のポンプの動きは、心臓血管系に駆動力を与えるため、心疾患や心臓の衰弱は深刻だ。冠状動脈症、高血圧、不整脈などの心疾患は、最終的に死をもたらす心不全を誘発することがある。生活習慣を整えることが心疾患の予防になる。

Unit7 要約　「骨格系：骨の健康」

私たちの骨は生きている。強く使える状態を維持するために、私たちの骨は常に変化している。しかし、加齢に伴い、骨粗鬆症のリスクが高まる。幼児期は骨組織を形成する重要な時期で、この時期にカルシウムやビタミンDの豊富なバランスのとれた食事を摂取することが大切だ。また、骨形成には身体活動も重要で、幼児期に身体活動をすることでよい骨格を形成することができるが、最近は子どもの活動量低下が骨の健康を脅かしている。骨の健康を促進するのは、何歳になっても遅いということはない。

Unit10 要約　「感染症の予防」

微生物には人体に有害なものもあれば有益なものもある。有害な細菌やウイルスが人体を侵すと、感染症を引き起こす。感染経路は微生物の種類によって様々だ。病原体は他の種同士でも感染力を持ち、その最近の例は豚・鳥インフルエンザである。HIVに感染してAIDSを発症すると比較的無害な細菌にも抵抗できなくなり、日和見感染の状態になる。MRSAを除いたほとんどの細菌は薬やワクチンで対抗できるが、ウイルスに対する治療はほとんどない。ウイルスは細胞内に住みつくので、ウイルスを殺す治療は細胞に無害でなければならない。ウイルス感染症に対する多くの治療法は対症療法にすぎない。